

平成30年度「児童・生徒の学力の向上を図るための調査」における

本校の結果と分析

江戸川区立一之江第二小学校 5年生

1 調査について

- ・調査日 平成30年7月5日（木）
- ・対象学年 第5学年
- ・実施人数 145名
- ・教科 国語・社会・算数・理科

2 各教科の調査結果

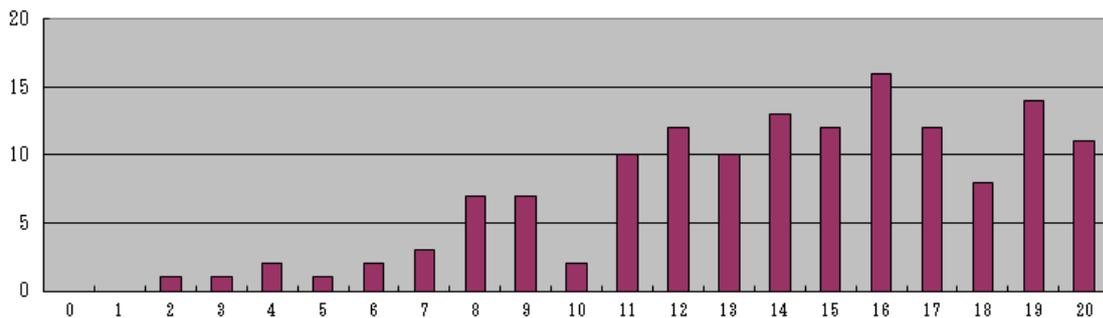
教科	A 教科の内容			B 読み解く力に関する内容		
	学年	江戸川	東京都	学年	江戸川	東京都
国語	70.5	62.9	65.0	69.4	65.7	68.3
社会	83.8	72.4	73.5	64.8	56.6	58.1
算数	62.2	55.3	57.5	37.4	28.8	31.3
理科	75.0	68.8	70.8	72.5	66.0	66.7

*単位は正答率（%）

*東京都の結果は抽出校、区の結果は区内全校による平均

3 各教科の分析(○成果／●課題)

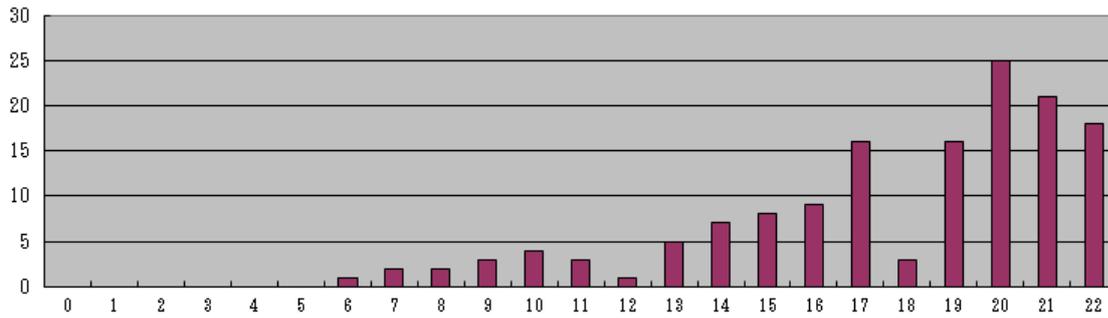
【国語】



○教科の内容に関しては、「関心・意欲・態度」、「書く」、「言語」、「読む」の5つの項目において、すべて東京都・江戸川区の平均を上回った。特に、「発表の内容を正確に捉える」問題は、正答率が高い。

●「一つの長い文章」を二つに分ける問題の正答率が36.1%と低かった。文章の全体を捉え、読み解く力に課題がある。また、修飾語に関する問題でも38.2%という低い正答率だった。既習事項をもう一度確認し、理解することが必要である。

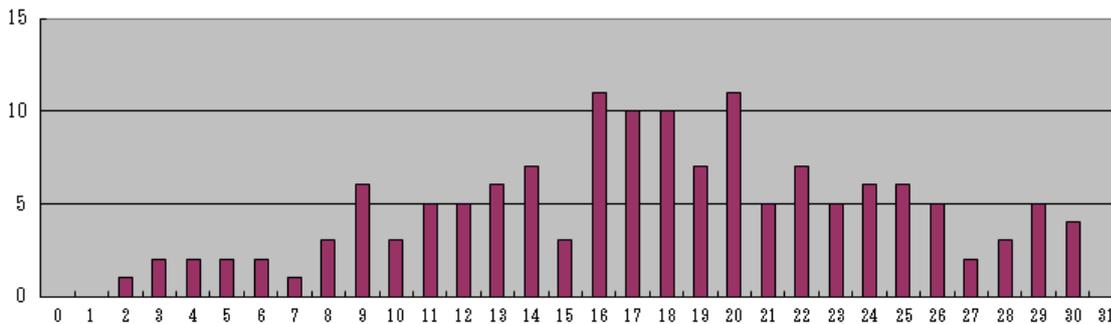
【社会】



○すべての項目において東京都の平均値より高かった。

●課題としては、「消防の仕事」に関する「社会的な思考・判断・表現」を問われる問題で55.6%、「東京都の水道」に関する「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」が求められる問題で50.0%と他の項目より正答率が低かった。

【算数】

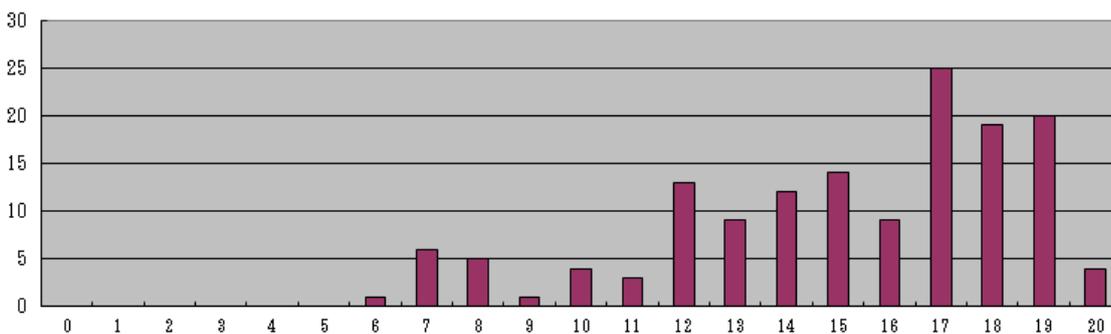


○「A 教科の内容」のすべての項目で東京都の平均値を上回っているが、数値を見てみると、「思考・判断・表現」では43.7%、「知識・理解」では53.5%と5割前後であるので、今後はこの2つの領域を意識して学習を行うことが大切である。

●「読み取る力」では20.7%と唯一東京都の平均値を下回った。四則計算などは比較的正答率が高いが、文章問題や応用問題のように読み取る力が問われる問題に大きな課題がある。特に「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」は11.0%と低い正答率だった。

●数量や図形についての問題も20%台と低い数値なので、読み取る問題と同様課題である。

【理科】



○すべての項目において東京都の平均値を上回っている。

●「観察・実験の技能」問題では正答率が41.4%と低い値だった。観察・実験器具の技能を確実にするために、繰り返し操作をさせる指導の充実を図る必要がある。

●「科学的な思考・表現」の問題でも、正答率が44.8%と5割を切った。文章が長く、読み取る力が求められる問題では、文章読解力が足りないため数値に現れなかった。